

P.1・企業と学生を結ぶ「交流会」を開催  
・「四日市商店街を元気にしたーい！！」研究発表会

P.2・名古屋市立大学と合同フィールドワーク  
・東北被災地の復興を願うCDを制作  
・第1回「経済学部ワークショップ」を開催

P.3・スペシャルオリンピックス日本・三重 ボランティア参加  
・三重中央開発リサイクルセンターを見学  
・多彩な講義を「特殊講義」で展開中

P.4・四日市市北部清掃工場の見学  
・環境情報学部1年生が竹林の間伐作業を体験  
・経済支援奨学金 四日市大学「人間たれ奨学金」を設立

## 企業と学生を結ぶ「交流会」を開催

6月6日(金)に本学において、NPO 法人人材育成センター主催による、県内企業と2、3年生を中心とした学生との「交流会」が開催された。今回は「学生の生の声を聞きたい」との参加企業側からの提案で、学生のリクルートスーツは禁止。普段着のまま、ざっくばらんとした雰囲気の中で、「交流会」は非常に盛り上がった。意見交換の中、企業側からは「大学の先輩が活躍してくれている」と、励みになるお言葉などをいただき、逆に学生からは「仕事のどういうところにやり甲斐を感じるのか」と、活動直前の緊張感のある質問もあった。

一般的に就職活動では、学生が、仕事内容を実感できず、業種や職種を決めることを出来ないまま、就職活動に入ってしまうことが少なくない。また企業側も、県内優良企業であっても、学生に直接アピールする機会は少ない。今回の「交流会」は、何から手をつけて良いのかわからない学生にとっても、早く学生にアピールしたい県内企業にとっても、双方にメリットがあり、和やかな雰囲気の中で、活発に意見交換が行なわれた。

今回の「交流会」に協力した経済学部とキャリアサポートセンターでは、今後もこのような機会を設け、県内企業と学生の親睦を深めていきたいと考えている。

<参加企業18社：順不同>

ICDA ホールディングス、第三銀行、ネットヨタ三重、ネットヨタノヴェル三重、ダイハツ三重、東産業、伊勢福、御木本真珠島、一号館、マツオカ建機、サン浦島、ほくせい、イセッ、名張育成会、四季の郷、誠文社、松阪興産、ゴーリキ

## 「四日市商店街を元気にしたーい！！」研究発表会

6月13日(金)に経済学部の鶴田ゼミ3年生による「四日市商店街を元気にしたーい！！」をテーマとした研究発表会が開催された。

鶴田ゼミでは、昨年秋から商店街においてインタビューやアンケート調査などを行い、商店街がおかれている状況や問題点を分析し、「人が集まり商店街が元気になるために何ができるか」を考えてきた。その結果、①空き地に健康器具を置こう！②環境改善のため可愛いゴミ箱を設置しよう！③コスプレと商店街のコラボによりファッションショーや商店のPRを行おう！の3つの企画が提案された。いずれの提案も学生目線での発想から生まれたユニークなものとなった。

緊張の中で行われた研究発表会では、他学部の教員や学生も参加し、多数の意見やアドバイスが出され、発表者の学生達は大いに刺激を受けたようである。なお、ゼミでは、今回の意見やアドバイスを参考にした上で、提案内容や発表方法の精度をさらに上げ、四日市一番街商店街「文化の諏訪駅」にて、商店街の人たちに向けてプレゼンテーションを行う予定。



## 名古屋市立大学と合同フィールドワーク

5月31日(土)に環境情報学部の神長ゼミは、名古屋市立大学と合同で四日市市塩浜地区でのフィールドワークを行った。これは講義で学んだ四日市公害について、より理解を深めることを目的に企画された。

午前中は、塩浜小学校を訪問、校内見学に先立ち四日市公害学習センターの谷崎氏から「四日市ぜんそく公害」の概要について説明していただいた。その後は、公害の酷かった当時に使用されていた「うがい場」を見学した後、屋上でコンビナートと塩浜小学校の位置関係などを皆で確認した。

午後は、「四日市公害と環境未来館(仮称)」の開館に向け、共に学び、歴史や教訓を忘れないようにと四日市再生「公害市民塾」が主催する講座に全員で出席した。今回の講座は、元三菱化成勤務で塩浜地区在住の「語り手」の方が講師であったことから、学生にとっては、午前中に現地を実際に自分たちの目で確認した体験がとても活きる講座となった。

環境社会学のフィールドワーク体験という性質上、すべて電車と徒歩で移動したこともあって、両大学生の間で生き生きとした交流が生まれた。参加した学生からも「現地見学はとても有意義でよかった」という声が多数寄せられた。



## 東北被災地の復興を願うCDを制作

環境情報学部メディアコミュニケーション専攻では、音響、映像、照明を実習する本格的な学内スタジオを有している。今回その学内スタジオで、東日本大震災での被災地の復興を願い、伝統民謡の継承を支援するCDを制作した。きっかけは、本学の教職員が中心となって設立した四日市東日本大震災支援の会のボランティアの際、同行した津軽三味線デュオのKUNI-KEN(兄弟で1名は本学卒業生)と、演奏会を聴きに来られた阿部康氏との出会い。

今回のレコーディング作品は、宮城県東松島市野蒜地区に伝わる「野蒜甚句」と、阿部康氏が震災直後創作した「奥松島甚句」。演奏はKUNI-KEN、レコーディングは関根辰夫准教授(環境情報学部)が担当した。また環境情報学部メディアコミュニケーション専攻の学生も、レコーディングに立会い、プロの臨場感を体験した。またマスタリングは、本学卒業生も所属するWarner Music Masteringのスタジオで実施した。このレコーディングは、四日市市民大学の体験講義として、一般の方々にも公開された。完成したCDは、4か所の仮設住宅で開催された民謡ライブで初お披露目となり、地域の方々は、ふるさと復興の思いを強く心に誓っていた。



## 第1回「経済学部ワークショップ」を開催

経済学部と四日市大学学会経済学部会との共同企画で教員の自主研究会と位置付けた「経済学部ワークショップ」を今年度から開催する。第1回目が4月16日(水)に行われ、税理士養成プログラムを担当する藤野裕講師が「会計学におけるリスクと不確実性」のテーマで研究発表を行った。様々な専門分野から教員が集まる経済学部らしい広範な議論が行われ、ワークショップ終了後も議論は続いていた。

今後も月1回のペースで開催し、研究発表、授業改善・学生指導改善、教育研究動向紹介など幅広いテーマで相互研修を実施していく。なお、「経済学部ワークショップ」は、経済学部の学生にも公開をしていく。

## スペシャルオリンピックス日本・三重 ボランティア参加

5月24日(土)・25日(日)の2日間で開催された「スペシャルオリンピックス日本・三重設立10周年記念イベント」に、本学学生の13名がボランティアとして参加した。スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちの自立と社会参加を目的に、スポーツをその手段として、日常的なスポーツトレーニングとその成果発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織。開会式には、来賓として鈴木



英敬三重県知事、末松則子鈴鹿市長らも参列。鈴鹿スポーツガーデン、鈴鹿サーキットボウルなどを会場に、サッカー、水泳競技、陸上競技、ボウリングの4競技が行われた。2日間を通じて総勢約280名が参加する盛大な大会となり、日頃のトレーニングの成果を発揮し競い合うアスリートの姿や、参加者達がいたる所で交流を深める光景が見られた。

本学の学生ボランティア達は、主としてサッカーに携わり、試合運営の手伝いの他に、まだ試合のできない子どもたちがサッカーをして遊ぶ企画を手伝った。うまくボールを蹴られない子どもに、蹴り方をレクチャーするなどして、最後はミニゲームができるまでになった。表彰式では、上位入賞者にアメリカ本部から取り寄せた、金・銀・銅のメダルが授与され、メダル授与の手伝いを任された学生は感激の様子であった。参加した学生は「ボランティアの勉強が辛いと感じたこともあったが、今日の参加者の様子を見て、自分が恥ずかしくなった。参加してよかった」などの声が聞かれた。学生にとっても心に残る大会となったようだ。

## 三重中央開発リサイクルセンターを見学

5月30日(金)に、環境情報学部の武本ゼミ・高橋ゼミの学生14名が、伊賀市にある三重中央開発(株)リサイクルセンターを見学した。この施設は、海外や国内・行政機関からの見学者も年間数千人に上る日本でも最大級の産業廃棄物の最終処分場。

はじめに、東日本大震災以来、関心が高まっている産業廃棄物や災害廃棄物の処理状況や汚染の測定方法、リサイクル方法などについての説明を受けた。この処理場では、1日1,000トン以上の産業廃棄物を処理・焼却しており、その際に必要となる書類のチェックは1日に数百枚に及ぶという。

今回は、エネルギープラザという地域へのエネルギー供給が可能な新施設も見学させて頂いた。排熱利用による4,000Kwの発電と、近隣ホテルに熱供給するトランスヒート・コンテナシステム、焼却灰を土木資材にしたり、植物用の土に混ぜるなどの有効利用の方法を実際に見せていただいた。さらに、食品廃棄物からの肥料づくりや、生ゴミからバイオガスの製造、また、PCBやダイオキシン汚染土壌の無害化焙焼炉なども見学した。騒動となった岐阜市椿洞処分地のダイオキシンもこの処理場で処理したとのことだった。今回の見学を通じ、環境問題やリサイクルについて学習したことは、学生たちにとっては大変有意義な体験となった。



## 多彩な講義を「特殊講義」で展開中

四日市大学では公開授業である特殊講義を毎年実施している。この講義は現場で活躍されている専門家を招いて、講義では学べない現場の声をお聞かせいただくことで、より深い学びを提供していただくもの。

今年度、経済学部特殊講義では、「アベノミクス時代の企業経営の展望」を主テーマに、環境情報学部特殊講義では、四日市の環境問題の歴史、三重県の自然環境問題などを中心に、総合政策学部では地方議会論を中心に据えながら講義を展開している。多彩な講師陣を招いて講義を進めており、興味深く、有益な情報で溢れた特殊講義(無料)への、多くの皆様に参加いただくことを願っている。

## 四日市市北部清掃工場の見学

5月28日(水)に環境情報学概論Ⅰの講義で、四日市市北部清掃工場を見学した。今回の見学では、学生が環境情報学部を設立した趣旨を再認識するために企画され、身近な環境問題として、自分たちの出すゴミがどのように処理されているか現状を見学し、環境問題の本質をより深く理解することを目的に行われた。

四日市市北部清掃工場には、小学生の時の社会科見学で来たことがある学生もいた。しかし、大学生になり新たな知見を持ち、改めてゴミ処理を現場で学ぶ体験はインパクトのあるものであったようだ。ゴミは捨てておしまいではなく、焼却した後で灰を再利用するまでに、ダイオキシンが発生しないように排ガス温度を制御し集塵装置によってダストを除去するなど、様々な処理が行われ、またそれらに膨大な費用が発生している現実には驚く学生たちの姿が印象的であった。

学生たちからは、「ゴミ問題は身近な環境問題だが、今回の見学で改めて一人ひとりの意識が大事だということを理解できた」などのコメントが寄せられた。今後の一人ひとりの環境や自然を配慮する意識に良い影響を与える貴重な体験であった。

## 環境情報学部1年生が竹林の間伐作業を体験

4月16日(水)に環境情報学部の1年生全員が大学キャンパスの竹林で竹の間伐作業を体験した。同講義は、環境情報学部生として身に付けて欲しい、環境・情報・メディア分野の基本的な事柄を学ぶもの。講師は、NPO法人PPK四日市(代表・植松正弘氏)の皆様で、学生たちはノコギリを使って実際に竹を切り倒したり、倒した竹の枝払いをしたり、適当な長さに切り揃のように一箇所に積み上げる作業などを行った。

学生たちの多くは、ノコギリを使った経験がなく、力の入れ方や身体の使い方がわからない学生もいたが、次第に慣れ、10mほどの高さで育った竹を次々に切り倒した。身近な自然環境問題である里山への竹の侵出と、竹林整備の必要性と、その方法を学ぶことが出来た。間伐体験の後には、タケノコ掘りも楽しんだ。



## 経済支援奨学金 四日市大学「人間たれ奨学金」を設立

景気回復気運が盛り上がる中、進学意欲ある生徒が経済的な理由で、大学進学をあきらめるケースも少なくない。四日市大学の建学の精神『人間たれ』をより具現化し、修学支援を積極的に行うため、本学独自の奨学金「人間たれ奨学金」を設立した。(2015年度入試より実施：定員20名)

この奨学金は入学試験前に申請を行う予約採用型奨学金で、主に家計支持者の経済状況により事前に選考され、入学試験(対象入試：一般推薦入試A日程、学力入試A日程、センター利用入試I期)での合格をもって正式に採用される。奨学金内容は、入学金全額および授業料の半額を給付、給付期間は、年度毎に家計基準や学業成績基準の審査があるものの原則4年間継続、また、日本学生支援機構奨学金との同時受給も可能となっている。(四日市大学「人間たれ奨学金」申請に関する問い合わせは入試広報室まで。)

これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>



「四日市大学 入試広報室(YokkaichiU)」  
入試情報や最新のニュースを掲載しています。

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200

TEL:059-365-6711 FAX:059-365-6630

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)

